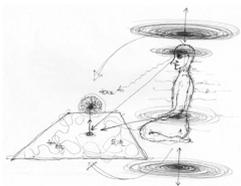


## 【土中絵画に関して】

土中絵画とは、描いた絵画を裸の状態ですら土中にうめてから約100日後に掘りおこすという鈴木寅二啓之の独自の技法であります。

これは縄文時代研究より学んだ循環の意識と、全ての存在に神が宿るとする日本の心を表現したいと考えたことから30年間に渡り行っている画法です。

### 描く Drawing



### 穴掘り Digging the hole



### 絵画埋め Burying the paintings



### 掘り出し Unearthing the paintings



### 鎌田 東二（京都大学名誉教授）推薦コメント

21世紀の最大の課題は環境や生命の循環回路をつないでいる「生態智」を、どのように具体的に生活や生き方の中に取り入れ、活かすことができるかにあるが、鈴木寅二啓之氏の「画行」は「土中絵画」の画法も含めて、そのような循環と共環を美術作品として表現する「生態智」に満ちている。

その21世紀的課題を背負う「画行」の行方を見護り、応援したい。

### 龍村仁（ガイアシンフォニー地球交響曲映画監督）猿田彦土中神社プロジェクト評

神殿に掲げたその“絵”は天空に無限に偏在する宇宙の意志と大地を結ぶメディアとなった。地上にのこった目に見える“絵”と土に還った目に見えない“絵”は共に響き合いながら鈴木【祈り】を未来の全ての生命（いのち）に届けてゆくだろう。